群教セ	G07 － 02
	令5.284集
	家庭－小

学びを主体的に自分や家族の生活につなげる児童の育成

――「問題を見いだし課題を設定する」学習過程の具体化を通して――

特別研修員　金子　由季

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

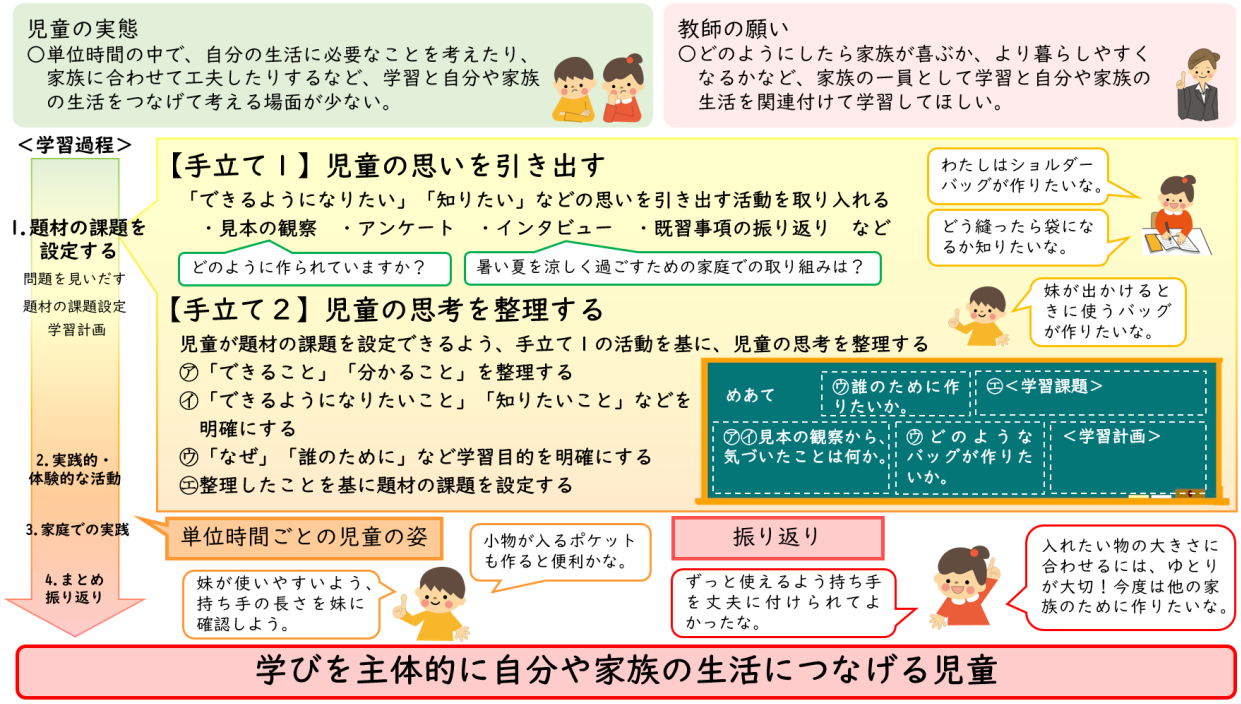
小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説家庭編には、「日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し，様々な解決法を考え，（中略）課題を解決する力を養う」と目標が示されている。また、令和５年度学校教育の指針（群馬県教育委員会）では、「家族・家庭や地域における生活を見つめることを通して、生活の中から問題を見いだし、解決すべき題材を貫く課題を設定するようにしましょう。」とあり、家庭科の学びを深める授業改善のポイントとして問題解決的な学習の重要性が示されている。

研究協力校の児童の多くは、家庭科で学んだことを家庭で実践することに意欲的である。一方で、学習したことを「自分の生活を考えると」「自分の家族なら」など自分や家族の生活に合わせて考えることに課題が見られる。これは、自分や家族の生活と関連付けながら学習できていないことに原因があると考える。このような児童が、学びを主体的に自分や家族の生活につなげて考えられるようにするためには、どのようにしたら家族が喜ぶか、より暮らしやすくなるかなど、家族の一員として自分や家族の生活と向き合うことが大切であると考える。

そこで、題材の１時間目に当たる「問題を見いだし課題を設定する」学習過程において、児童の思いを引き出し、家庭とのつながりを明確にすることで、「家族のためにできるようになりたい」「学習したことを自分や家族に合わせて実践したい」など、学びと自分や家族の生活をつなげ、家庭生活をよりよいものにしていこうと自ら課題解決に向かう児童を育成することができると考え、本研究テーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

学びを主体的に自分や家族の生活につなげ、家庭生活をよりよいものにしていこうとする児童を育成するためには、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善して、解決策を導き出していく学習過程を重視した問題解決的な学習の充実を図る必要がある。その中でも題材の１時間目にあたる「問題を見いだして課題を設定する」学習過程において、「家族のためにできるようになりたい」「生活に合わせて作りたい」などの児童の思いを引き出す。そして、その思いから題材の課題を設定することで、その後の単位時間においても課題解決に向けて目的や見通しをもって、学びと自分や家族の生活をつなげることができると考え、以下の手立てを設定した。

手立て１　児童の思いを引き出す

問題を見いだす場面において、児童が自分や家族の生活を振り返り、「できるようになりたい」「知りたい」などの思いを引き出すため、題材に合わせた活動を取り入れる。

（例）・見本の観察　　・インタビュー　　・アンケート　　・既習事項の振り返り　など

手立て２　児童の思考を整理する

以下のように、児童の思考を整理しながら、学習の目的や学習後の姿を明確にして題材の課題を設定することで、その後の単位時間においても学びと自分や家族の生活をつなげながら学習できるようにする。

手立て１の活動を基に「できること」「分かること」を整理する（㋐）。そして、理想の姿や学習後の姿を共有し、そのために「できるようになりたいこと」「知りたいこと」などを明確にする（㋑）。また、学習と自分や家族の生活をつなげることができるよう「なぜできるようになりたいのか」「誰のためにできるようになりたいのか」などを問い掛けることで、学習の目的を明確にする（㋒）。㋐・㋑・㋒の整理した思考を基に、題材の課題を設定する（㋓）。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　授業の導入において見本の観察を行い、自分や家族の生活とつなげながら児童の思いを引き出したことで、題材の１時間目の振り返りでは、「家族のために」「自分が使いやすいように」など、自分や家族の生活とつなげ、具体的に「できるようになりたいこと」を記入する児童が多く見られた。

○　児童の思いから題材の課題を設定し、更に単位時間の学習活動の中でその課題を確認したことで、自分や家族の生活とつなげながら学習に取り組むことができた。また、単位時間の学習活動や題材全体の振り返りにおいても、自分や家族の生活がより快適になるように必要なことを選択したり、自分や家族に合わせたりして実践しようとする児童が多く見られた。

○　児童が題材の課題を設定できるよう、児童の思いを引き出し、思考を整理したことで、学習後の姿をイメージし、「次はこの学習だ」と必要感をもちながら学習する様子が見られた。さらに、友達にポイントを聞いて次の学習につなげたり、分からないことを教科書や動画で確認したりと、自ら課題解決に向けて学習する姿が多く見られた。

２　課題

○　題材全体を通して学びと生活をつなげる意識が更に継続するよう、単位時間の導入で題材の課題や「なぜ」「誰のために」などの学習目的や家庭で生かせることを問い掛けたりするなど、題材の課題に立ち戻って振り返りをしたりする場面をより充実させていく必要がある。

実践例

１　題材名　　「思いを形にして生活を豊かに」（第６学年・２学期）

２　本題材について

本題材は、身の回りの生活を便利にしたり、楽しい雰囲気を作り出したりするなど、自分や家族の生活を豊かにするための布を用いた製作として、入れたい物に合わせたバッグ製作を行う。

バッグ製作は、できあがりの寸法に縫いしろ分を加えたり、余裕をもって出し入れしたりするためのゆとりの分量を考える必要がある。そのため、縫いしろやゆとりの必要性やその見積もり方を理解し、それらに係る技能を身に付けるために適している。また、生活の中で身近に使用するバッグを目的や使い方に応じて自分で選んだ布を使い、適切な大きさで作ることができるという手作りのよさを感じながら製作することもできる。製作するバッグについては、自分や家族の生活から使用する場面やそのバッグを使う人、バッグに入れる物を想起し、思いに合った布を準備したり、大きさや形、ポケットの付け方を考えたりしながら製作をしていく。「こんな物を入れたい」「家族のためのバッグを作りたい」という思いをもって製作をすることで、「ちょうどよい大きさにするにはどうしたらよいか」「丈夫にするにはどうしたらよいか」と、よりよいバッグの完成に向けて、課題を解決しながら学習に取り組むことができる。また、完成後には実際に家庭や学校で使ったり、家族が使う様子を見たりすることで、自分が製作したことの喜びを味わうとともに、仕上がり具合を確かめることもできる。日常生活に使える布製品を自分で製作できたという達成感は、「次はどんな物が作れるだろうか」「誰かのために作りたい」と、今後の実践意欲を向上させることができる。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1)　製作に必要な材料や手順、製作計画、ミシン縫いによる目的に応じた縫い方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。（知識及び技能） (2)　生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。（思考力、判断力、表現力等） (3)　家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。（学びに向かう力、人間性等）
評価規準	(1)①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 ②ミシン縫いによる目的に応じた縫い方について理解しているとともに、適切にできる。 (2)　生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (3)　家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

過程	時間	主な学習活動
つかむ	第１時	・見本の観察を基に作りたいバッグの特徴や製作についての疑問点について考え、意見交流をする。 ・題材を通した学習課題と学習計画を立てる。
追究する	第２時	・見本のバッグを参考に、形や大きさ、持ち手の付け方などを考え、製作計画を立てる。
	家庭	・バッグ製作動画を視聴し、型紙の作り方を確認する。
	第３・４時	・型紙の作り方を確認し、入れたい物の大きさに合った型紙を作成する。
	第５時	・ミシンの準備の仕方、安全な使い方、糸のかけ方、縫い方について確認し、練習布を用いて試し縫いをする。
	家庭	・バッグ製作動画を視聴し、しるしの付け方、布の裁ち方を確認する。
	第６時	・しるしの付け方、布の裁ち方を確認し、しるしを付け、布を裁つことができる。
	家庭	・バッグ製作動画を視聴し、製作手順を確認する。
	第７～11時	・手順に沿って製作をする。 ①中表に二つ折りにし、左右のわきを縫う。 ②出し入れ口を三つ折りにして、まち針で留め、縫う。 ③持ち手を縫い付ける。 ④表に返す。
	家庭	・製作したバッグを家庭や学校で活用したり、他の物を製作したりする。
まとめる	第12時	・自分の作品や実際に使ってみた様子について紹介し合う。 ・学習課題を基に本題材のまとめをする。

３　本時及び具体化した手立てについて

本時は全12時間計画の第１時に当たる。児童の「作りたい」「知りたい」という思いを引き出し、「誰のためにどんなバッグを作りたいか」を基に題材の課題を設定する場面である。児童が題材全体を通して、自分や家族の生活とつなげながら学習できるよう、以下の手立てを基に学習を進めた。

手立て１　児童の思いを引き出す

見本となる複数のバッグを観察しながら、バッグがどのように作られているかを考えることで、「自分にも作れそう」「作り方を知りたい」「こんなバッグを作りたい」という思いを引き出すことができるようにする。

手立て２　児童の思考を整理する

見本となるバッグを観察することで、ミシンの使い方が分かる、ポケットを付けることができるなど既習事項から「できること」「分かること」を整理する（㋐）。そして、自分の理想のバッグを作るために「できるようになりたいこと」「知りたいこと」などを明確にする（㋑）。また「どのようなバッグを作りたいか」「誰のために作りたいか」などを問い掛けることで、学習の目的を明確にする（㋒）。そして、㋐・㋑・㋒の整理した思考を基に、題材の課題を設定する（㋓）。

４　授業の実際

(1)　手立て１　児童の思いを引き出す

導入では、入れたい物や使う場面に合わせた複数のバッグを提示し、どのような物を入れるバッグなのか予想する学習活動を行った（図１）。形や大きさの異なるバッグを提示することで、これからバッグ製作の学習が始まることを確認でき、さらに、「ショルダーがいいな」など、自分の作りたいバッグをイメージする児童の姿が見られた。

図１　バッグのクイズ

次に、グループに分かれ、見本のバッグを観察する時間を設定した。話合いの前に、エプロン製作で学習したことを振り返り、観察の視点（図２）を提示したことにより、既習事項と結び付けながら話し合う様子が見られた。また、見本のバッグ（図３）が手元にあることで裏返して観察することができ、学習していない作り方を予想する児童も多く見られた（図４）。

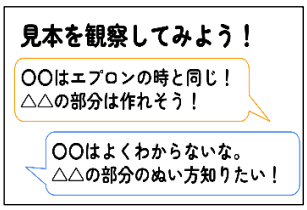


図２　観察の視点

図３　入れる物や使う場面を明確にした見本のバッグ

図４　バッグを観察する様子

(2)　手立て２　児童の思考を整理する

手立て１で話し合ったことを基に、児童の思考を整理し、題材の課題を設定した。児童の思考に沿って学習が進められるよう、手立て２の㋐～㋓の活動を、黒板にまとめながら学習を進めた（図５）。実際に行った活動は次ページに記されているとおりである。

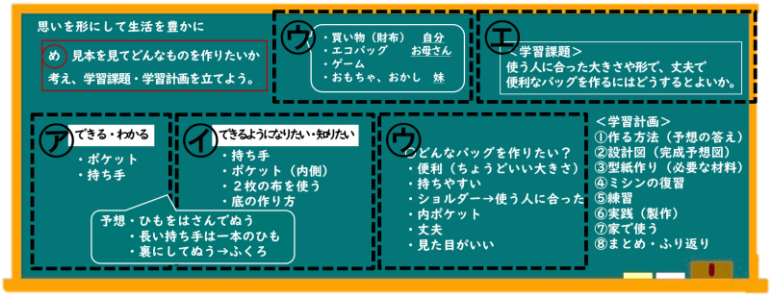


図５　児童の思考を整理した板書

㋐　「できること」「分かること」を整理する

グループで話し合ったことを発表し、全体で共有、整理する時間を設定した。「エプロンでポケットを付けたからこのポケットは付けられる」など既習事項を基にできることを発表したり、観察したバッグを見せながら気付いたことを発表したりする様子が見られた（図６）。

図６　バッグを見せながら発表する児童

㋑　「できるようになりたいこと」「知りたいこと」などを明確にする

㋐の話合いの中で分からなかったことを「できるようになりたいこと」「知りたいこと」として全体で共有した。児童の中には、分からなかったことに対して「こうすればできる」など予想を発表したり、友達の予想に対して「確かに」「でも」など反応したりする様子が見られた（図７）。

T:できることを見付けた人はいますか。
S:バッグにポケットを付けることはできる。
T:ポケットは「できること」に入りそうですね。
　よく分からない部分があった人はいますか。
S:内側にポケットがあって分からない。
S:裏にして縫えば付けられるかな。7
S:裏にすると縫い目が6出ちゃうよ。
S:どうすればいいのかな。
T:内側のポケットは「できるようになりたいこと」
　に入りそうですね。
T:他に気付いたことがある人はいますか。
S:ショルダーのひもは挟んで縫うとできそうだよ。

図７　㋐・㋑の教師の発問と児童の反応

㋒　「なぜ」「誰のために」など学習目的を明確にする

「できるようになりたいこと」や予想したことが解決したら、どのようなバッグを作りたいか問い掛けた。実物を観察したことにより、使っている場面を想像しながら考えている様子が見られた。さらに、課題を解決した姿が明確になるよう、児童から出された言葉に対し、問い返しの質問をした（図８）。

T:「できるようになりたいこと」や予想がはっきり
　したらどんなバッグを作ってみたいですか。
S:いつでも持ち歩けて便利なバッグ。
T:便利なバッグってどんなバッグですか。
S:いっぱい入る。
T:たくさん入るなら、みんなこのバッグ（大きいバ
　ッグを提示）を作るのでいいかな。【問い返し】
S:いや、ちょうどいいサイズがいい。

図８　㋒の教師の発問と児童の反応

誰が使うバッグを作りたいのかについて問い掛けたところ、「お母さんが使うエコバッグ」「妹が使うショルダーバッグ」などの意見が出された。友達の考えを聞くことで、多くの児童がバッグ製作をすることが、自分のためだけでなく、家族のためになることに気付くことができた。

㋓　整理したことを基に題材の課題を設定する　＊「題材の課題」を授業の中では「学習課題」としている。

㋐・㋑・㋒の整理した思考を基に題材の課題を設定した。児童はこれまでの学習で、家庭科の学習過程を身に付けており、題材の課題に必要な言葉を選び、課題を設定することができた。「便利」などの言葉を㋒の学習の中で確認しておくことで、学習後の姿をより明確にしながら題材の課題を設定することができた（図９）。題材の課題設定後、課題解決に向けて必要な学習を考え、学習計画を立てた。

T:学習課題はどうなりそうですか。
S:便利で、丈夫な、ショルダーバッグ。
T：みんなショルダーバッグ？
S:違う違う、使う人に合ったバッグ。
T:では、どんな言葉が入りそうですか。
S:便利。丈夫。使う人に合った。
＜学習課題＞
使う人に合った大きさや形で、丈夫で便利なバッグを作るにはどうするとよいか。

図９　㋓の教師の発問と児童の反応

５　考察

児童が実際に見本のバッグを手に取り観察したことで、バッグを使う場面や人、作りたいバッグを想像し、「自分や家族のために作りたい」という思いを引き出すことができたと考える。また、児童の思考を整理し、児童の思いを基に題材の課題を設定したことで、その後の単位時間でも作りたいバッグができるよう型紙を作ったり、丈夫なバッグにするための縫い方を考えたりと、自分や家族の生活とつなげながら、課題解決に向けて学習する様子が見られた。題材のまとめでは、「自分が作ったバッグを妹が使ってくれてうれしかった」という喜びや「次はおばあちゃんのために作りたい」という目標などが聞かれ、今後の実践意欲へと結び付いた児童の姿を見ることができた。

以上のことから、題材の１時間目に当たる「問題を見いだして課題を設定する」学習において児童の思いを引き出し、児童の思考を整理しながら題材の課題を設定することは、学びを主体的に自分や家族の生活につなげる児童の育成に有効であったと考える。